

西国街道いのくち歴史の散歩道

～いのくち歴史ロマン～

西国街道は、江戸時代に京都と下関を結ぶ西日本の幹線道であった山陽道を広島藩などで呼称したものです。街道の道幅は二間半(約4.5メートル)あり、東海道や中山道などの五街道に次ぐ規模を誇っていました。西国街道における重要な街道として、宿場や一里塚、街道松などが整備されました。井口の区間は急坂が多く西国街道の難所の一つと言われていました。今は、当時の街道が昔のままの姿で残っているところはほとんどありませんが、往時を偲ばせる歴史的な建造物などが現存しています。

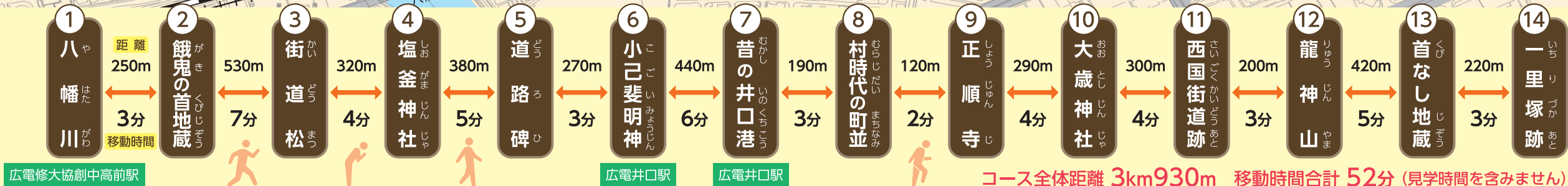
石碑は、高さ1.7m、幅1.5m、重さ1.7トン。刻まれた「鈴峰」は、あさのながこと広島藩最後の藩主、浅野長勲公の揮毫と記されています。地域の安全を願い、明治31年(1898年)に建立されました。



「鈴峰」の石碑



距離と移動時間



凡例			
	散歩道のルート		おもなバス停
	昔の西国街道		トイレ

コース全体距離 3km930m 移動時間合計 52分(見学時間を含みません)

※移動時間はおおよその時間です